Interview 129Ez-

りんご産業の存続の危機をデジタルの力で解決



弘前市 企画部 企画課

本市のりんごは約150年にわたり栽培技術を受け継 ぎ、数々の困難を乗り越えてきました。しかし、生産者 の高齢化と担い手不足問題により存続の危機を迎え ています。そこで、デジタルを活用した技術継承と生 産性向上により、持続可能なりんご産業を目指してい ます。特に、「りんごDX」の取組によって、りんご栽培 の暗黙知を形式知に変えることで、新規就農者の育 成に取り組んでいます。



りんごジュース等を作

る際に発生するりんご

搾汁残渣を有効利用

するため、メタン発酵

処理を検討している。

デジタル活用によって見えた未来

もりやま園株式会社 代表取締役 森山 聡彦 さん

もりやま園は、弘前市でりんごやシードルを生産して います。当園では、栽培記録の蓄積、作業工程の可視 化、スマート農機の導入による「りんごDX」に挑戦し、 労働生産性を2.4倍まで向上させることができました。 将来的には、労働生産性をさらに倍増させ、りんご産 業を成長産業にします。また、通常捨てられる摘果り んごをシードルに加工・販売し、弘前市のSDGs達成 に貢献しています。

主幹 猪股豪 さん

「りんごDX」

青森県

弘前市

持続可能な「日本一の

りんご産地 |の実現

SDGsで切り拓く

弘前市の基幹産業であるりんご産業は、後継者が少ない状況が続いており、人材育成や生産者 の働き方改革等を図る必要がある。そのため、VR剪定学習支援システムやAIによる摘果作業支 援アプリケーション等の地域展開・実装を進め、担い手の人材育成に取り組むとともに、農作業の 省力・効率化が期待されるスマート農機等の導入により生産者の経営改善・発展を推し進める。

人口 168,466人 面積 524.20 km²

たまつり」が全国的にも有名な観光都市である。

生産量日本一のりんごや国史跡弘前城をはじめとした歴史

的建造物に加え、春の「弘前さくらまつり」や夏の「弘前ねぷ

都市の特長

VRによる人材育成プログラム

剪定作業は、豊富な経験と高度な観察眼を要するが、冬季しか 学習機会がないことに加え、ベテラン生産者の減少により技 術継承の機会も減少。VR剪定学習支援システムの地域実装に より、剪定技術の継承に取り組む。

に樹間



スマート農業動画・「みどりの食料システム戦略 |技術動画(農林水産省) (https://www.youtube.com/watch?v=_a-Xd54tJ1k)を加工して作成

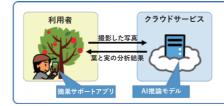
スマート農業の啓発・促進による農作業の効率化

AIアプリケーションによる生産性向上

弘前市

HIROSAKI CITY

果実の大玉化や糖度上昇等の高品質化、翌年以降の安定生産 に不可欠な摘果作業も高度な判断を要する技術の一つ。ス マートフォンで撮影した写真をAI推論モデルが分析し、適正着 果量の判断を支援するアプリケーションを構築する。



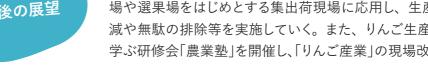
AIアプリケーション利用イメージ

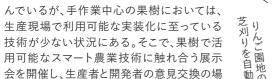
Column

「りんご DX | の導入に加え、今後は「トヨタ式カイゼン | 事業にも取り組む予定。 トヨタ自動車の生産管理システム「トヨタ生産方式」のノウハウを、りんごの生産現 場や選果場をはじめとする集出荷現場に応用し、生産性向上を目指し、作業負荷低 減や無駄の排除等を実施していく。また、りんご生産者がトヨタ式カイゼンについて 学ぶ研修会「農業塾」を開催し、「りんご産業」の現場改善、働き方改革を推進していく。

今後の展望

Column













弘前市の SDGs に関する取組

スマート農業については、田んぼや露地野菜

など土地利用型農業において技術開発が進

を設置することで、果樹におけるスマート農

業の技術開発を促し、将来的な生産効率の 向上や担い手不足問題の解決を進めていく。



弘前市のりんご産業 に関する取組









- 桜の名所 弘前公園(弘前城)
- 弘前ねぷた
- 近代建築の巨匠 前川國男作の市庁舎
- りんご公園内にあるりんごシードル工房
- 様々なりんご加工品
- 弘前のシンボル 桜と弘前城と岩木山

